

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年10月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1071100208
法人名	有限会社ふるさと
事業所名	グループホーム原市
所在地	安中市原市正善1867 (電話) 027-380-2575

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年10月7日

【情報提供票より】(平成21年9月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 6人, 非常勤 7人, 常勤換算 7.7人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	800円/日	その他の経費(月額)	光熱費100円/日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	1日1,200円		

(4) 利用者の概要(9月14日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.5歳	最低	62歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	アミヤ医院、みやぐち医院、今井歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、安中市街地の西方、田畑が点在する静かな住宅地にある。多くの家族が希望する心身の現状維持に対してリハビリ用の平行棒を備え、午前午後リハビリ体操を行い寝たきりにしない介護を行っている。入居者の持てる力を活かし、蒸しタオル集めやホワイトボードに日付と曜日を記入する役割を担うなど、理念の「自立支援」を実践している。また、入居者1人ひとりが「英語を勉強する」、建物内を「1日3周する」などの年間目標を掲げ、実行している。手を出し過ぎない介護や入居者と職員が共に買い物や掃除を行ったり、管理者のギターに合わせて唄ったり、足りない点やできない事を入居者同士が補い合い助け合う等入居者総てが笑顔で楽しく過ごせる事業所運営を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題である「評価の意義の理解と活用」及び「重度化や終末期に向けた方針の共有」については、改善シートを作成し職員と話し合い、ターミナルケアマニュアルを作成するなど改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、白紙の評価票が配布され職員それぞれが記入し、管理者がまとめた後に職員に回覧され、できている事・できていない事について反省するよう管理者から指示されている。災害時に近隣に住む職員の家族から協力が得られるよう職員から提案があり、検討中である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>偶数月に開催している。毎回全家族に案内状を発送し、多くの家族の出席が得られるよう8月は納涼祭の行事に併せ開催している。事業状況や行事開催状況の報告・災害時の協力依頼や意見交換等を行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時に「何でも言ってください」と声かけを行い、髪の毛を短く切った入居者の家族から「おしゃれな親なので髪を長く伸ばして欲しい」と要望があり長い髪にしたり、多くの家族が希望する心身の現状維持に対して朝夕のリハビリに力を注ぐなど家族の希望を取り入れた支援を行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、祭りの御輿を見物したり、道路清掃に参加している。事業所主催の納涼祭には、隣保班の人達を招待している。降雨時には隣人から洗濯物の取り入れの声かけを受けたり、野菜を頂いている。地域の人達が組織する各種ボランティアの訪問があり、演奏会に管理者がギターで共演するなど地域との交流を深めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の自立を支援し、地域に役立つ施設づくりを目指した理念を掲げ支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時等に、理念を振り返っている。寝たきりの状態で入居した方が車いすですら移動できるようになるなどリハビリと見守りを重点とした自立支援を行っている。また、事業所のイベントに地域の人達を招待するなど地域交流を行い、理念の実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、祭りの御輿を見物したり、道路清掃に参加している。事業所主催の納涼祭には、隣保班の人達を招待している。降雨時には隣人から洗濯物の取り入れの声かけを受けたり、野菜を頂いている。地域の人達が組織する各種ボランティアの訪問があり、琴演奏に管理者がギターで共演するなど地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	白紙の評価票を全職員に配布して記入し、それらを管理者がまとめた後に職員に回覧している。災害時には近隣に住む職員の家族から協力が得られるよう職員から提案があり、検討中である。前回評価の改善課題である「評価の意義の理解と活用」及び「重度化や終末期に向けた方針の共有」については改善シートを作成し、職員と話し合いターミナルケアマニュアルを作成する等改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催している。毎回全家族に案内状を送付し、多くの家族の参加が得られるよう8月は納涼祭の行事に併せて開催している。会議では、事業状況や行事開催状況等の報告、災害時の協力依頼や意見交換等を行っている。	○	自己評価及び外部評価を運営推進会議の議題とし、意見交換等を通じサービスの質の向上に取り組まれるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者が使用するオムツの補助申請に窓口を訪れた際や事業所が主催する納涼祭に担当者を招待した時には、情報交換を行っている。また、介護相談員が毎月ホームを訪問した際に指導を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、新規採用職員の紹介と入居者の健康状態や暮らしぶりを報告している。現在、事業所の情報を伝えるための広報紙の発行を検討している。金銭管理は利用料と共に請求し、利用料持参時に領収書を渡し精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に「何でも言ってください」と声かけを行い、髪の毛を短く切った入居者の家族から「おしゃれな親なので髪を長く伸ばして欲しい」と要望があり長い髪にしたり、多くの家族が希望する心身の現状維持に対して朝夕のリハビリに力を注ぐなど家族の希望を取り入れた支援を行っている。	○	重要事項説明書に、苦情・相談窓口として事業所担当者の氏名、市の担当課名と電話番号及び国民健康保健団体連合会などの電話番号を記載されるよう期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用職員には、入居者1人ひとりの生活歴等の引き継ぎを行い、日勤や夜勤時はベテラン職員が1ヶ月間マンツーマンで指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種講習会や県主催の実践者研修・リーダー研修等の案内文を掲示し、希望を募り参加している。修了後は朝の申し送りに発表し、報告書を作成し供覧している。日々の業務を通じ指導を行い、職員の資質向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、フォローアップ研修会やレベルアップ研修会に参加している。今後は、大会で事例発表するべく職員と検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人が複数回の事業所見学を行い、事業所の雰囲気に慣れてもらうようにしている。希望者には、体験入居できる体制を取っている。また、入居前に、生活歴や病歴・希望等を聞き、入居時に円滑な支援ができるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	紙飛行機の作り方や飛ばし方を教わったり、戦争体験や昔の町並みの話を聞いたりしている。掃除を一緒に行い、入居者の足りない点やできない事を入居者も互いに補い合い助け合うなど共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おやつや入浴時の会話等で本人の意向を聞き、異性の介護を好まない入居者には同性介護を行っている。意思表示の困難な入居者には表情等から推測すると共に、家族と相談し本人の意向に沿った介護を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が入居者2名を担当する担当制で、3ヶ月毎に入居者の担当を交替している。担当職員は、毎月1回計画チェック表に記録し、家族、管理者、計画作成担当者、看護師、担当職員が出席する担当者会議で発表し、意見交換を行い計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に定期見直しを行うと共に、日々の変化や毎月行うチェック表の変化に基づき家族も参加する担当者会議で介護計画の見直しを行っている。家族には介護計画を渡し、署名押印を頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診は原則家族対応であるが、家族の要望や状況により職員が対応している。入居者が入院した時は面会し、早期退院に向け努めている。気持ちの不安定な入居者には、散歩や買い物などで気分転換を行う等柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に、協力医の説明を行い希望者は協力医の診療を受け、受診の際は総て職員が対応している。かかりつけ医受診の際は、家族がバイタルチェック表を持参するなど適切な診療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えた入居者のあり方については、「ターミナル(終末期)ケアマニュアル」を家族に説明し、医師の指導のもとに事業所で看取りを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や失禁時の声かけ等は、周囲の人に気づかれない介助を心がけている。記録はプライバシー確保の観点から、食堂で昼寝の時間帯などに見守りを兼ねて行っている。書類は事務室に保管し、持ち出しを禁止している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの時間に部屋で休んだり、情緒不安定な入居者の外出を行ったり、話好きな入居者、歌の好きな入居者等1人ひとりの希望に沿った個別対応の支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、庭で採れたふきの筋取りやじゃがいもの皮むき等の下拵えや下膳を行っている。たけのご飯や栗ご飯など季節に合った食事を提供し、時には出前を取り、検食を兼ねた職員と和やかに食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2ユニットが、曜日を変えて週2日入浴している。入浴剤を使用し入浴を楽しんでいる。入浴中の会話を通して、日常生活等の希望や意向を把握するよう職員を指導している。入浴を拒否する入居者には、「さっぱりしようね」等の言葉かけで誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の蒸しタオルを集める、ホワイトボードに日付と曜日を記入する・誕生日に順番でお祝いを述べるなどの役割を担っている。弁当持参の花見や買い物、ビデオ鑑賞や管理者のギターに合わせ歌を唄うなどの気晴らしや楽しみの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩で近隣の池の鯉を鑑賞したり、玄関先で日光浴を行っている。また、買い物や妙義山の桜の里や紅葉平公園等へのドライブなど戸外に出かける支援を行っている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断外出者に対しては見守りを徹底し、運営推進会議や近隣の人達に通報などの協力依頼を行い鍵をかけないケアを心がけている。勤務職員が少ない時間帯のみは、朝の申し送り話し合い施錠する時もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルと消防計画が作成され、避難経路・避難場所・緊急連絡網が整備されている。秋には消防署の指導のもとに夜間を想定し、近隣の人達の参加を得て、救急救命講習会と消火・避難訓練を行う予定である。また、3日分の食糧と水を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した週間献立表を作成し、介護記録に食事の摂取量が記録されている。水分補給は特別注意を要する入居者のみ介護記録に摂取量を記載している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂にはリハビリ用の平行棒やソファ等が配置され、壁には入居者が制作したちぎり絵や習字が飾られている。また、「英語を勉強する」「新鮮野菜を作る」「1日3周する」など各入居者が書いた年間目標の色紙が壁に掲げられ、英語の本を読んだり、A棟とB棟の廊下を1日3周するなど行っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや衣装ケース・テレビ・化粧品等が持ち込まれ、居室は整理整頓されている。友人と交換している絵手紙やちぎり絵・ドライブ先の写真・入居者が描いた自画像等が飾られ居心地良く過ごせるよう工夫している。		